

(5) 教育活動後の指導計画例（日ごと）

<資料の見方>

見開きで左右のページを合わせて1つの表として見ます。

- 教育活動後の「幼児の生活の流れ」をおおまかに記載しています。

- 各年齢の教育活動後のねらいを記載しています。

教育活動後の指導計画（4月～5月）		環境構成（◇）・保育者の援助（☆）
時間	幼児の生活の流れ（活動等）	3歳児
		【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> • 保育者や様々な年齢の友達と親しみをもって関わり、園生活の流れを理解する。 • 新しい環境に慣れ、好きな遊びを見付け、安心して生活する。
		教育活動に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	◇ 午睡室に寝具の準備をする。→ ☆ 不安な様子を見せる幼児には個別に寄り添う。 ☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。→
14:00	○ 午睡する。 （5歳児も夏休み明けまでは短い午睡をとる。）	◇ 間食の準備をする。→ ◇ 静と動の遊びに分けたり、遊びによって場所（コーナー）を決めて落ち着いて遊べる環境を作る。→
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり及び長時間保育の保育室へ移動する。	☆ 寝ている幼児がまだいるので静かに保育室に入るように伝える。
15:00	○ 間食する。 ○ 好きな遊びをする。 （室内遊び・戸外遊び）	☆ 間食を喉に詰まらせることがないように様子を見る。 ☆ 室内遊びでは、遊具の貸し借りができるように声掛けをする。 ◇ 新入園児に配慮し、遊具は十分な数、量を用意する。 ままごと・絵本・描画 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 戸外遊びでは、一人で遊べる遊びも保障しつつ、集団遊びにもかかわれるようにする。 三輪車・砂場遊び 等 ☆ 4・5歳児の遊びの工夫に気付けるように声掛けをする。 ☆ 疲れが出やすい時間帯なので、幼児かけがをしないよう、高所での遊びや幼児同士のトラブルに注意する。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 使った遊具等をある程度整頓しておき、自分で進んで片付けができる環境を整える。 ☆ 自分が使った遊具を片付けるように促す。 ☆ 衣服が汚れていれば、帰る前に着替えを促す。
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	☆ 迎えを待ちわびて不安になっている幼児には安心できるように寄り添う。 ☆ 0～2歳児とかかわれるよう、保育者も一緒に遊ぶことで自然な触れ合いを生み出す。
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

- 「預かり保育を利用する幼児に対する配慮点（△）」と「長時間保育を利用する幼児に対する配慮点（▲）」を記載しています。
- 預かり保育を利用する幼児に対しては、初めて利用したり久々に利用したりすることを想定した配慮事項を、長時間保育を利用する幼児に対しては、長い保育時間を想定した配慮事項について記載しています。

- 環境構成（◇）、保育者の援助（☆）を記載しています。
- ※ 複数の年齢の幼児に共通する事項は矢印（→）で表しています。

「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児		預かり保育 幼児に 対する 配慮点（△）	長時間 保育に 対する 配慮点（▲）
4歳児	5歳児		
環境構成（◇）・保育者の援助（☆）			
<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でやろうとする。 好きな遊びを見付け、気の合う友達と遊びながら安心して生活する。 	【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分でやろうとする。 好きな遊びを見付け、新しい学級の友達と積極的にかかわりながら安心して生活する。 新入園児を温かく迎える。 		
教育課程に係る教育時間の教育活動			
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 荷物を自分で整理整頓できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 新入園児の手伝いをお願いする。 	▲ 教育活動中に起きたけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見守り、保護者に伝えられるようにする。	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 5歳児を手本に自分で考えて行動できるよう5歳児の姿を伝える。 ☆ 荷物の整理整頓の仕方が分からない幼児には手助けをする。 ☆ 間食の時間を楽しくめるように会話の橋渡しをする。 ☆ 友達とイメージを共有できるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 午睡をしたくない幼児にも少し横になって過ごすことを伝え、午睡に抵抗感をもたないようにする。 ☆ 20分程度経っても眠れない幼児は別室に移動し、静かに遊ぶ。 ☆ 間食の準備を手伝うように声を掛ける。 	▲ 午睡は入眠後から1時間～1時間半を目安にし、夜の睡眠に影響が出ないようにする。 △ 初めて預かり保育を利用する幼児には、流れを分かりやすく伝え、安心できるようにする。 △ 不安の大きい幼児には教育活動の学級担任が一緒にかかわる。	
<ul style="list-style-type: none"> 積み木・空き箱製作 等 ☆ 戸外遊びでは、集団遊びになかなか入れない幼児にルールを説明しながら一緒に遊べるようにする。 砂場遊び・固定遊具 等 ☆ 自分で遊具を進んで片付けるように促す。 ☆ 3歳児の幼児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもてるように、保育者がモデルとなって一緒にかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体操・踊り・〇〇ごっこ 等 ☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。 ☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、世話をすることで一緒に遊びに加わったりする。 ☆ 3・4歳児とかわる楽しさを味わえるように、世話をしてくれる幼児を認める声掛けをする。 	▲ 午睡から起きた幼児から間食を食べられるようにする。 △▲ アレルギーには十分に留意する。 △▲ 異年齢でも一緒に遊べるように、5歳児が中心となってルールを考えられるようにする。 △ 納得して遊びを終えることができるように、帰る時間を早めに伝える。	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 帰る前に自分が清潔かどうか確認できるように声を掛け、必要であれば着替え等の手伝いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分が使っていないものも片付けるように、手伝いをお願いする。 ☆ 戸外での遊びを終えて帰る時間までに、身だしなみを整えるように伝える。 	△▲ 降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛けする。 ▲ 保育時間が長い幼児が不安にならないよう、保育者がかかわったり、遊びを楽しめる環境を整えたりする。	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 疲れている中でけがをしないように、落ち着いて遊べる配慮をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 3・4歳児に優しく接している姿を認める。 	▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食を準備する。	

教育活動後の指導計画例（4月～5月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 ・ 保育者や様々な年齢の友達と親しみをもって関わり、園生活の流れを理解する。 ・ 新しい環境に慣れ、好きな遊びを見付け、安心して生活する。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	◇ 午睡室に寝具の準備をする。 → ☆ 不安な様子を見せる幼児には個別に寄り添う。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児も夏休み明けまでは短い午睡をとる。)	☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。 → ◇ 間食の準備をする。 →
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり及び長時間保育の保育室へ移動する。	◇ 静と動の遊びに分けたり、遊びによって場所(コーナー)を決めて落ち着いて遊べる環境を作る。 → ☆ 寝ている幼児がまだいるので静かに保育室に入るように伝える。
15:00	○ 間食する。 ○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	☆ 間食を喉に詰まらせることがないように様子を見る。 ☆ 室内遊びでは、遊具の貸し借りができるように声掛けをする。 ◇ 新入園児に配慮し、遊具は十分な数、量を用意する。 ままごと・絵本・描画 等 ☆ 戸外遊びでは、一人で遊べる遊びも保障しつつ、集団遊びにもかかわれるようにする。 三輪車・砂場遊び 等 ☆ 4・5歳児の遊びの工夫に気付けるように声掛けをする。 ☆ 疲れが出やすい時間帯なので、幼児がけがをしないよう、高所での遊びや幼児同士のトラブルに注意する。
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 使った遊具等がある程度整頓しておき、自分で進んで片付けができる環境を整える。 ☆ 自分が使った遊具を片付けるように促す。 ☆ 衣服が汚れていれば、帰る前に着替えを促す。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 迎えを待ちわびて不安になっている幼児には安心できるように寄り添う。
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	☆ 0～2歳児とかかわれるよう、保育者も一緒に遊ぶことで自然な触れ合いを生み出す。
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点 (△) 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点 (▲)
4歳児	5歳児	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進級後の生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でやろうとする。 ・ 好きな遊びを見付け、気の合う友達とかかわりながら安心して生活する。 	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でできることは自分でやろうとする。 ・ 好きな遊びを見付け、新しい学級の友達と積極的にかかわりながら安心して生活する。 ・ 新入園児を温かく迎える。 	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
<p>☆ 荷物を自分で整理整頓できるように促す。</p>	<p>☆ 新入園児の手伝いを願います。</p>	<p>▲ 教育活動中に起きたけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見守り、保護者に伝えられるようにする。</p> <p>▲ 午睡は入眠後から1時間～1時間半を目安にし、夜の睡眠に影響が出ないようにする。</p> <p>△ 初めて預かり保育を利用する幼児には、流れを分かりやすく伝え、安心できるようにする。</p> <p>△ 不安の大きい幼児には教育活動の学級担任が一緒にかかわる。</p> <p>▲ 午睡から起きた幼児から間食を食べられるようにする。</p> <p>△▲ アレルギーには十分に留意する。</p> <p>△▲ 異年齢でも一緒に遊べるように、5歳児が中心となってルールを考えられるようにする。</p> <p>△ 納得して遊びを終えることができるように、帰る時間を早めに伝える。</p> <p>△▲ 降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛けする。</p> <p>▲ 保育時間が長い幼児が不安にならないよう、保育者がかかわったり、遊びを楽しめる環境を整えたりする。</p> <p>▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食を準備する。</p>
<p>☆ 5歳児を手本に自分で考えて行動できるよう5歳児の姿を伝える。</p> <p>☆ 荷物の整理整頓の仕方が分からない幼児には手助けをする。</p> <p>☆ 間食の時間を楽しめるように会話の橋渡しをする。</p> <p>☆ 友達とイメージを共有できるように援助する。</p> <p style="text-align: center;">積み木・空き箱製作 等</p> <p>☆ 戸外遊びでは、集団遊びになかなか入れない幼児にルールを説明しながら一緒に遊べるようにする。</p> <p style="text-align: center;">砂場遊び・固定遊具 等</p> <p>☆ 自分で遊具を進んで片付けるように促す。</p> <p>☆ 3歳児の幼児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもてるように、保育者がモデルとなって一緒にかかわる。</p>	<p>☆ 午睡をしたくない幼児にも少し横になって過ごすことを伝え、午睡に抵抗感をもたないようにする。</p> <p>☆ 20分程度経っても眠れない幼児は別室に移動し、静かに遊ぶ。</p> <p>☆ 間食の準備を手伝うように声を掛ける。</p> <p>☆ 食べ終わったら自分で片付けをするように促す。</p> <p>☆ 室内での動きが大きくなり過ぎないように声掛けをする。</p> <p style="text-align: center;">体操・踊り・〇〇ごっこ 等</p> <p>☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。</p> <p>☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、世話をする機会を設けたり、保育者がモデルになって一緒に遊びに加わったりする。</p> <p>☆ 3・4歳児とかかわる楽しさを味わえるように、世話をしてくれる幼児を認める声掛けをする。</p> <p>☆ 自分が使っていないものも片付けるように、手伝いを願います。</p> <p>☆ 戸外での遊びを終えて帰る時間までに、身だしなみを整えるように伝える。</p> <p>☆ 3・4歳児に優しく接している姿を認める。</p>	
<p>☆ 帰る前に自分が清潔かどうか確認できるように声を掛け、必要であれば着替え等の手伝いを行う。</p> <p>☆ 疲れている中でけがをしないように、落ち着いて遊べる配慮をする。</p>		

ロビーの指導士画例

教育活動後の指導計画例（6月～12月） ※ 7月～8月を除く

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 ・身の回りのことや自分でできることをやろうとする。 ・興味や関心をもったことにかかわって遊ぼうとする。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 温かく声を掛けて迎え入れ、安心して保育室に入れるようにする。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児も夏休み明けまでは短い午睡をとる。)	☆ 寝る時間であることを伝え、静かに部屋に入るよう促す。保育者がモデルとなり、どのように移動したらよいか分かるようにする。
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。→ ◇ 間食の支度ができるよう、机や椅子を並べておく。落ち着いて食べられるように、机や椅子の間隔等を工夫する。
15:00	○ 間食する。	
	○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ 落ち着いて遊べるように、静と動の遊びの場所を分ける等、コーナーの作り方を工夫する。→ ※室内…ブロック、塗り絵、絵本 等 ※戸外…固定遊具、砂場 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 自分で片付けができるように、あらかじめ遊具を集める等の配慮をしておく。 ☆ 降園時に忘れ物がないか幼児と一緒に確認し、できるだけ自分で身支度ができるように声を掛ける。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 一日を振り返り、友達や保育者と挨拶をし、次の登園を楽しみにできるようにする。→
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	☆ 0～2歳児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもって接するなど年長者らしい姿が見られた際には認める言葉を掛ける。
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点 (△) 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点 (▲)
4歳児	5歳児	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、進んで取り組む。 友達とのかかわりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同の物の片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 この季節ならではの遊びをゆったりとした雰囲気の中で楽しむ。 	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
<p>☆ 寝る時間であることを伝え、落ち着いて部屋に入れるようにする。</p> <p>◇ 間食の準備を幼児と一緒にできるように配慮する。</p> <p>◇ つい立てやサークルを活用し、落ち着いて遊べる場を作る。</p> <p>※室内…折り紙、積み木 等 ※戸外…固定遊具、かけっこ、フープ 等</p> <p>☆ 5歳児の姿を見て挑戦する気持ちを認める。 ☆ 3歳児や友達に優しく接する気持ちをもてるように、保育者がモデルになり、知らせたりしていく。</p> <p>◇ 自分で進んで片付けができるように、片付け場所の表示を明確にしておく。 ☆ 降園時には、幼児が自分で身支度ができるように、様子を見ながら声を掛ける。</p> <p>☆ 日中の気候や活動により、疲れていることも考え、無理なく遊べるように見守る。</p>	<p>☆ 寝る時間・寝る部屋であることを伝え、行動の仕方を考えて移動できるようにする。 ☆ 年下の幼児の午睡のための着替えや布団の準備等に取り組むことで自信をもてるようにする。</p> <p>☆ 食事前の準備や、3・4歳児の配膳等を進んでできるように、見守ったり手を添えたりする。</p> <p>◇ 落ち着いて遊べるように、静と動の遊びに分けたり、幼児の姿から環境を再構成したりする。</p> <p>※室内…季節の装飾作り、コリント、写し絵 等 ※戸外…鬼遊び、リレー 等</p> <p>☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、接し方について考えられるような言葉を掛ける。 ☆ 3・4歳児とかかわることで、意欲をもって遊ぶ姿に共感し、認める。</p> <p>◇ 自分で意識して片付けができるように、幼児の動きを見守る。また、共同の場にも考えが及ぶような言葉を掛ける。 ☆ 降園時には、自分で身支度を整えている姿を認める。</p> <p>☆ 年下の乳幼児とかかわることが負担にならないよう、かかわることを強いないよう心掛ける。</p>	<p>△▲ 日中の教育時間に発生したけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見る。また、必ず保護者に伝えるようにする。</p> <p>△ 家庭での様子を聞く等の連携をとり、休息が必要かどうかを判断する。</p> <p>△▲ 動線が分かりやすいように環境構成の工夫をする。</p> <p>▲ 家庭的な雰囲気の中で、食事ができるように、午睡から起きた幼児から間食できるように準備をしておく。</p> <p>△▲ アレルギーのある幼児には、座る場に配慮する、メニューを複数で確認する等、十分に配慮して間食を提供する。</p> <p>△ 一人一人の降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛ける。</p> <p>▲ 保育時間が長い幼児には、安心して過ごせるよう、個別に遊べる環境を整える。</p> <p>▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食の準備をする。</p>

ロビーの指導計画例

教育活動後の指導計画例（1月～3月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 ・ 生活に必要なことが分かり、できることを自分からやろうとする。 ・ 自分のやりたい遊びを保育者や近くにいる友達と楽しむ。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 寝る時間であることを理解し、静かに部屋に入ってくる行動を認める。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児は体力がついてきているため、必要な幼児のみ午睡をとる。)	
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	◇ 間食の支度が自分で少しでもできたり、椅子を自分で並べたりできるよう、意図的に椅子置き場に残したままにしておく。
15:00	○ 間食する。 ○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ この季節ならではの遊具を用意する。→ ☆ 5歳児の修了が近いことを伝え、かかわって遊べるよう配慮する。 ※室内…カルタ、すごろく 等 ※戸外…長縄跳び、鬼遊び 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 片付ける場所や順番を分かりやすく絵や写真で示すなど、関心をもった幼児が自分なりに見通しをもって取り組めるようにする。 ☆ 片付けや着替え、帰りの支度など、幼児が自分で最後までやってみようとする意欲を大いに認め、できた喜びを味わえるようにする。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点 (△) 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点 (▲)
4歳児	5歳児	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。 自分の好きな遊びを十分に楽しむ。 	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 思いや考えを様々な方法で表現し、遊びや生活に楽しんで取り組む。 	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
<p>☆ 午睡までの行動を見通し、5歳児の真似をしながら主体的に寝る準備を始める動きを認める。</p> <p>◇ 5歳児と協力しながら間食の支度に取り組む姿を認め、次年度は最高学年になるという喜びと自覚を感じられるようにする。</p>	<p>☆ 4歳児に声を掛けながら、主体的に午睡の準備を進める姿を認める。昨年あるいは一昨年の同時期の姿を振り返り、自分で成長を感じられるような言葉を掛ける。</p> <p>◇ 5歳児が3・4歳児をリードして幼児たちで間食の支度を進められるよう見守る。主体的に取り組む姿を大いに認める。</p>	<p>△ 間食の支度については、長時間保育を利用する幼児が中心となって準備を進めるため、預かり保育を利用する幼児も力を発揮できるよう配慮する。</p>
<p>☆ 5歳児の修了が近いいため、可能な限り、かかわって遊べるよう配慮する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>※室内…カルタ、すごろく、引きごま 等</p> <p>※戸外…長縄跳び、ドッジボール、鬼遊び 等</p> </div> <p>◇ 最高学年になる期待感を高めるため、片付けや帰りの支度をする時間を利用して、5歳児から生活する上で気を付けていることや頑張っていることを直接聞く場を設ける。</p>	<p>☆ 可能な限り、3・4歳児とかかわって遊べるよう配慮する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>※室内…カルタ、すごろく、投げごま 等</p> <p>※戸外…長縄跳び、ドッジボール、鬼遊び 等</p> </div> <p>◇ 園生活を自分たちで進めている充実感を味わい、修了への期待感を高められるよう、片付けや帰りの支度をする時間を利用して、伝えたいことや自分たちが頑張っていることを、実際に4歳児に伝える場を設ける。</p>	<p>△ 長時間保育を利用する幼児同士の輪に入りづらそうな様子が見られたら、保育者が橋渡しをする。</p> <p>△ 預かり保育を利用する5歳児にも、自分が頑張っていることを4歳児に伝える場を設け、修了への期待感を高めるとともに、自らの成長を実感できるようにする。</p>

長期休業期間中の指導計画例（7月～8月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の身の回りのことを、自分でやろうという気持ちをもつ。 ・ 保育者や友達とかかわりながら、自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ。
7:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長時間保育児は順次登園する。 ○ 身支度を整える。 ○ 好きな遊びをする。(室内) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 登園時には、一人一人の体調を把握し、感染症の早期発見や予防に努める。 → ☆ 身支度を自分なりにやろうとする意欲を認める。 ◇ 少人数でもリラックスしてそれぞれにやりたい遊びに取り組みめるように、ござや段ボール、つい立てなどの仕切りでコーナーを作る等の配慮をする。 → ◇ 遅い時間帯に登園した幼児は、片付けまでの時間を考慮し、短い時間でも楽しめる遊びを一緒に考えたり提示したりする。 → ◇ 個々にゆったりと遊べる遊び(パズル、粘土、ブロック、絵本、製作等)を用意する。 →
8:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片付ける。 ○ トイレに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 少し前に片付けを予告しておくことで、気持ちの切り替えがスムーズにできるようにする。
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集合し、今日の予定を知る。 ○ 魚、カブトムシの餌やり(3歳児) ○ ウサギ、モルモット小屋の掃除(4歳児・5歳児) ○ 夏野菜・草花に水をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 今日の予定を聞くことで、一日に期待感を持ち、生活できるようにする。 ☆ 幼児と一緒に魚の餌やりなどをしながら、驚きや発見に共感する。 ☆ 幼児と一緒に夏野菜の世話をしながら、形、色、匂い、感触の変化に気付いたり、収穫への期待をもったりできるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休憩、水分補給をする。 ○ 水着に着替える。 ○ 体操する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 着替えの手順は図で示し、自分でできる時間を十分に確保する。 ☆ さりげなく援助することで、自分でできたと思えるようにする。
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ○ プールで水遊びをする。(3歳用のプールと、4・5歳用のプール) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水鉄砲や輪投げなど道具を使うなど、楽しい雰囲気の中で遊ぶ中で、水に慣れるようにする。 ◇ 顔に水がかかると嫌がったり、水を怖がったりする幼児もいるので、実態に応じて場を分け、安心して水遊びが楽しめるようにする。 ◇ 状況に応じて4歳児、5歳児と同じ遊具を使ったり、一緒のプールで水遊びをしたりしながら、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点 (△) 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点 (▲)
4歳児	5歳児	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢の友達との生活を楽しみながら、自分のことは自分からやろうとする。 ・ 水の中での遊びを十分に楽しむ。 	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しをもち、自分たちで生活を進めていこうとする。 ・ 自分なりのめあてをもって、プール遊びに取り組む楽しさを感じる。 	
<p>☆ 身支度を自分からやろうとする姿を見守り、認めていく。</p> <p>◇ 5歳児に名札を付けてもらうことで、かかわるきっかけをもてるようにする。</p>	<p>☆ 5歳児の動きが他の学年の手本になることを伝え、意識をもって行動できるようにする。</p> <p>☆ 身支度を終える時間や片付けの時間の目安を伝え、生活に自分なりの見通しをもてるようにする。</p>	<p>△ 預かり保育の利用の経験差に配慮しながら、援助の程度を考える。</p>
<p>☆ 5歳児の声を聞いて、片付けを自分たちで進めようとする意欲を認める。</p> <p>☆ 話の聞き方や姿勢について、5歳児を見るように促し、自分で気付くことができるようにする。</p> <p>◇ 5歳児に世話の方法を教えてもらい、親しみの気持ちをもてるようにする。</p> <p>☆ 分からないことは5歳児に聞くよう助言する。</p> <p>☆ 幼児が疑問に思ったり発見したりしたことに共感しながら、その気付きを周囲の幼児にも知らせる。</p> <p>☆ 幼児が自分のことを自分でやろうとする姿を認める。</p> <p>☆ 水分補給の大切さを話し、必要感をもって自分から進んで水分補給を行うように促す。</p> <p>☆ 水遊びでは約束を守ることの大切さを知らせ、事故やけがにつながる安全な遊び方を伝える。また、危険な場合は機会を捉えて指導する。</p> <p>◇ 5歳児と一緒にプールに入ったり、同じ道具を使ったりすることで、憧れたり真似たりして遊べるようにする。</p> <p>◇ 5歳児の姿を見せることによって、顔をつける、潜るなど、挑戦しようとする意欲につなげる。</p>	<p>☆ 片付けの時間をあらかじめ5歳児に知らせておくことで、自分たちで片付けの時間に気付き、周りの幼児に教えられるようにする。</p> <p>◇ 自分で予定を確認できるように、週予定を掲示する。</p> <p>☆ 話を聞く態度、挨拶、返事等が、3・4歳児の手本となっていることを意識できるように、よい姿を具体的に認める。</p> <p>☆ 5歳児がリードをとりながら、当番活動を進めようとする姿を見守る。4歳児が困っていたら、そのことに気付けるように言葉を掛ける。</p> <p>☆ 植物の世話や収穫を通して、その生長や色や形、匂い、数量などに関心をもてるように言葉を掛ける。</p> <p>☆ 着替えが早く済んだ幼児には、3歳児の着替えを手伝ったり、4歳児の様子を見守ったりするように言葉を掛け、年長者としての有能感をもてるようにする。</p> <p>☆ 自分ができるようになったことを繰り返したり友達の刺激を受けて新しいことに挑戦したりする姿を認める。</p> <p>☆ めあてに向かって頑張っている様子や、できるようになったことなどを認め、達成感を味わえるようにする。</p>	<p>△ 一日の予定を確認することで、見通しをもち、安心して過ごせるようにする。</p> <p>△ 学級担任から一人一人への援助の仕方を引き継ぎ、教育時間と一貫した指導ができるようにする。</p> <p>▲ 学年ごとの経験内容を教員間で共通理解し、各年齢に合った経験を積み重ねていけるように配慮する。</p> <p>△ 水遊びの指導内容や体操の内容は、学級担任と事前に話し合っておく。</p> <p>△ 水遊びは、年齢別ではなく、水慣れの程度でグループを分けるなど、一人一人の経験の違いに配慮し、個別指導ができるようにする。また、無理なく水に親しめるように、水位の調節や遊び方を工夫する。</p>

12:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食を準備する。 ○ 給食をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 水着の着脱や後始末などを自分でやろうとする意欲を認める。 ◇ 水遊び後は落ち着ける場を作り、体を休められるようにする。—————→ ☆ 全員が揃うまでの間は、早く集まった幼児と手遊びをするなどして、楽しく落ち着いて待てるようにする。 ☆ 4・5歳児が箸を使って食べることやこぼさないで食べる様子などを見て、憧れの気持ちや真似してみようという気持ちをもてるようにする。
13:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 午睡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 4・5歳児が着替える様子を見たり、午睡の準備を手伝ってもらったりしながら、自分でやってみようとする気持ちを育てる。
15:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 起床する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 起こしたり着替えたりする順番を先にするなどの配慮を行い、自分で身支度が進められる時間を確保する。—————→
15:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 間食する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 5歳児がやってくれていることを話題にしながら、4・5歳児の動きに興味をもてるようにする。
16:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。(室内) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 前日や午前中にしていた遊びの続きが楽しめるように環境の構成をする。—————→ ◇ 暑さによって、夕方には疲れも見られるので、一人一人がじっくりと遊びに取り組みやすいような場を設定する。 (絵本、パズル、ブロック、描画 等) ◇ 4・5歳児がしている遊びを真似ながら遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見える場を工夫する。 ◇ 一人一人の遊びや生活のペースを大切にしてお過ごせるように、状況に応じて遊びの場を区切るなどの配慮をする。
18:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 預かり保育を利用する幼児は、降園する。 ○ 補食をとる。 ○ 好きな遊びをする。(室内) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 降園時間の目安を知らせ、幼児なりに気持ちに区切りを付け、満足して遊びを終えられるよう配慮する。 ☆ 降園時間が近付いたら場を整理し、すぐに片付けられるもので遊ぶように声を掛ける。 ☆ 翌日の登園を楽しみにできるように、今日一日の楽しかった出来事を振り返ったり、明日の予定を伝えたりする。—————→ ☆ 補食は個々の降園時間やその日の食欲などに応じて、量を加減する。また、人数が少ないので、一か所で保育者も一緒に座り、楽しく食事ができるようにする。
20:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最終降園 	

<p>☆ 5歳児が献立を紹介する中で、食材やメニューに関心をもてるように必要に応じて言葉を添える。</p> <p>◇ 箸を使って食べる、好き嫌いせず食べるなど、5歳児のよい点を話題にして、やってみようという気持ちをもてるようにする。</p> <p>◇ 疲れが顕著に見られる場合には、午睡の時間を個に応じて調整するなど、必要に応じた休息がとれるように配慮する。</p>	<p>◇ 台拭きや献立の紹介など、自分たちでできることを行い、生活を進めていけるようにする。</p> <p>☆ 食事のマナーに気を付けながら食事を進められるように声を掛ける。</p> <p>☆ 服のたたみ方や着替えの仕方など、丁寧に取り組んでいる様子を具体的に認める。</p> <p>☆ 3・4歳児を起こしたり簡易ベッド(コット)運びを手伝ったりするなど、自分でできることを考えて動く姿を認める。</p>	<p>△ 長時間保育を利用する幼児に遠慮して、力を発揮できない5歳児には、保育者が後押しして、自信をもって自分にできることに取り組めるよう働き掛ける。</p>
<p>☆ 間食の準備を進めてくれる5歳児に感謝の気持ちをもてるように、5歳児がしてくれていることを話題にする。</p>	<p>◇ 台拭きをする、お茶を注ぐなど、自分にできることを自分たちで考えて、生活を進めていけるようにする。</p>	
<p>☆ ごっこ遊びでは、5歳児と一緒に遊びながら簡単なやりとりを楽しめるように、イメージがふくらむ言葉を掛ける。</p> <p>☆ ボードゲーム等は5歳児の友達に遊び方やルールを教わり、友達に親しみの気持ちをもち、遊びの経験を広げていけるようにする。</p> <p>☆ 一人一人が楽しんでいる姿を話題にし、周りの友達と楽しさを共有できるようにする。</p>	<p>◇ 友達と一緒に遊びの場を作ったり、必要なものを作ったりするなど、遊びの準備を自分たちで進められるように環境を整える。</p> <p>☆ 友達に刺激を受け工夫して遊んでいる姿を認め、みんなの前で紹介する機会を設けることで、楽しさが幼児全体に伝わるようにする。</p> <p>☆ 降園時の身支度では、5歳児の動きが、他の学年の手本になることを知らせる。</p>	<p>▲ スキンシップをとりながら、保護者への思いや寂しさを受け止める。</p> <p>▲ 仕切り等で空間を狭め、環境を再構成したり、ソファやカーペットを置いたりするなど、少人数でもゆったりくつろいで過ごせるように配慮する。</p>
	<p>◇ 5歳児が台拭き、配膳、お茶を注ぐことを担えるようにする。</p>	<p>▲ より家庭的な雰囲気でもリラックスできるように配慮する。</p> <p>▲ 一人で遊べるような遊具を用意し、人数が少なくなっても落ち着いて遊べるようにする。</p>

運動会前の時期の指導計画例

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の流れが分かり、安心して生活する。 ・ 体を動かした後に、水分補給したり、休息したりすることの大切さを知る。 ・ 運動遊びを積極的に楽しみ、運動会に期待をもつ。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 教育活動において運動会の取組みをしていることから、手洗い、うがいを念入りにするよう声掛けをする。————→
14:00	○ 午睡する。	☆ 教育活動における運動会の取組で体力を消耗していることが予想されるため、普段以上に、健康観察を念入りに行う。————→
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	
15:00	○ 間食する。	☆ 水分補給は、普段よりも多めに行う。————→
	○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ 3歳児は、体力面を考慮し、室内で遊べるよう環境を構成する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">ブロック、ままごと、絵本、描画 等</div>
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 時間の経過とともに疲れも増し、調子が落ちることが予想される。片付けは、保育者が一緒に取り組み、幼児が負担を感じないよう配慮する。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆運動会前は着替えの頻度が高いため、降園前には、着替えた物を持ち帰ることを忘れていないか確認する。————→
17:30	○ 他の保育室へ移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点 (△) 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点 (▲)
4歳児	5歳児	
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 汗を拭く、衣服を着替えるなど、自身を清潔に保つ大切さを知る。 5歳児と一緒に遊ぶ中で、刺激を受けて遊びを広げる。 昨年の運動会を思い出し、運動会に期待をもつ。 	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 汗を拭く、衣服を着替えるなど、自身を清潔に保つよう心掛けるようになる。 異年齢と一緒に遊ぶ中で、年少者に対していたわりの気持ちをもつようになる。 5歳児としての自覚をもち、運動会に期待をもつ。 	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
	☆ 午睡をしない幼児は静かに過ごすように伝える。	△ 預かり保育利用児は午睡がないことから、特に、健康観察を念入りに行う。
☆ 午睡や間食の様子から、一人一人の幼児の疲れ具合を把握する。実態により、静的な遊びと動的な遊びの選択に保育者が関与する。	☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。	▲△ 教育時間中の影響から疲れが見える幼児には、落ち着いた静かな遊びができるように配慮する。個に応じて対応する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ※室内…ブロック、折り紙、絵本、描画、積み木、空き箱製作 等 ※戸外…かけっこ、リレー、玉入れ、鬼遊び 等 </div>		
<p>◇ 体力的に余裕のある4歳児が、5歳児と一緒に運動会に関連した遊びを楽しめるような環境を構成する。</p> <p>◇ 園庭に運動会のかけっこのラインを描いておく。</p> <p>◇ 皆で踊れる場所と音源を準備する。</p> <p>☆ 5歳児とのかかわりの中で刺激を受け、新たなことに挑戦しようとする意欲を認める。</p> <p>☆ 5歳児の遊びに加わり、ルール理解ができていない場合は、橋渡しをする。</p>	<p>☆ 4歳児とかけっこをする際は、勝負にこだわるのではなく、自己の課題と向き合えるような言葉を掛けたり、純粹に走る楽しさを味わう姿に共感したりする。</p> <p>☆ 鬼遊び、玉入れ等、運動会では自分が取り組まない遊びも楽しめるようにする。</p>	▲ 長時間保育を利用する幼児は、体力的に配慮を要する期間が続くため、降園時に保護者と、体調についての情報共有を密にする。